

上島の文芸

弓削短歌会【弓削】

遠見ゆる石鍾連峰影濃ゆし裾野をひろく襷たたな
わる

島田 義治

日常のマンネリ打破を企みて心おどけてフラダン
ス教室

地元 静子

窓ごしの日にかざし見る毛氈苔液きらめける千の
触毛

橋本喜代子

何なすも緩慢なりしが惚け防止と短歌一首の続詠
をなす

平川 房子

寒天に炎のぼりしとんど焼息災願ひ灰持ち帰る

福原 洋子

あてもなく流るる落ち葉の散歩路に我がうつし身
もながされて行く

松本 悦郎

ひき寄せて足の爪切るこの辛さこんなことにも悲
しみの涌く

安川 二三子

久びさの雪に遭いたり県民の森にのこれる雪踏み
しめつ

和田 綱郎

旋回の鳶は何を狙いいん薄暮くつきりと足見せて
飛ぶ

有吉 貞子

人間も動物も育児はするけど介護をするは人間だ
けなり

石田 富美子

風寒さ日暮れの露地を親子連れ「おててつないで」
歌いにつくる

上村 美智子

双葉吟社【岩城】

全身をやぐら炬燵へ老の冬

児島 泰

登校の児等の声なき寒の雨

伊佐 幹男

寄り添いし鹿の親子に寒の雨

田中 華丘

借りた傘返し又借る寒の雨

林 七重

子や孫の笑顔たつぷり齋粥

古林 幹枝

初鶏の声たくましく天仰ぐ

山元 征子

野の恵み胃にやさしかり七草粥

美濃部 妃苗

竹馬や幼の運びおぼつか

森本 和佳

寒の雨襷をつなぐ疾走者

田名後 篁雨

庭枯れて久しき頼む水仙花

幸本 孤燈

平成23年歌会始のお題及び 詠進歌の詠進について

宮内庁からのお知らせです。

平成23年歌会始のお題が「葉」と定められました。

お題は「葉（は）」ですが、「若葉（わかば）」、「落葉（らくえふ）」、「葉緑素（えふりよくそ）」のように「葉」の文字の入った熟語を使用しても差し支えありません。

■詠進の期間 9月30日までとし、郵送の場合は、消印が9月30日までのものを有効とします。

■詳しくは宮内庁ホームページを御参照ください。

<http://www.kunaicho.go.jp/>



新生児誕生記念樹を贈呈します！

上島町では町内で1歳を迎えた子どもさんの誕生のお祝いと健やかに成長することを願い、毎年3月に町花である“サクラ”とクロガネモチ（因島ライオンズクラブより）の苗木を贈呈しています。

今年も、次のとおり記念樹の贈呈を行いますので、対象となるお子さんと保護者の方は、是非ご参加下さい。

■対象者 平成20年10月1日～平成21年9月30日までに誕生した新生児
(案内文書も送付します)

■開催日 平成22年3月8日(月)

■時間・場所 魚島：9時10分 魚島総合支所
岩城：10時45分 岩城港務所
生名：11時45分 生名総合支所
弓削：13時00分 せとうち交流館

■問合せ先 上島町弓削総合支所 企画情報課 TEL 0897-77-2500



かみじま歴史探訪

郷土の先輩たちシリーズ①

ペリー戦艦と漂流船員

村上水軍の時代はもちろん、早くから海上活動になじんでいた芸予諸島の島々からも多くの漂流船員が出現しています。幕末の嘉永三（一八五〇）年の暮れに紀伊半

島沖で遭難、漂流した兵庫県の灘の樽回船、栄（永）力丸の乗組員17人の中には3人の芸予諸島の出身者がいました。



民蔵の島城岩

★伊予、岩城島

民蔵（のち大吉と改名）

★備後、因島棕の浦

亀蔵

★安芸、生口島瀬戸田 倉蔵（仙八、サム・パッチ）

紀伊半島の沖合で難破、漂流中にアメリカの商船に救助され、サンフランシスコに入港。チョンマゲ姿の漂流船員はサンフランシスコの市民から舞踏会に招待され、のち一行17人の写真は現地の新聞にも掲載されています。

一行は同地にはほぼ一年間滞在したのち、米艦セントメリー号に移乗して中国向け出発。途中、寄港したハワイでは、発病した船頭の万蔵が死亡します。その後の一行の行動はまとまりを欠き、グループでの行動が目立ちます。

同号は嘉永五年二月（一八五二年三月）香港に到着、一行は米艦サスケハナ号に移乗します。このころ米国政府は、日本の開国に向けて活動中で、サスケハナ号はその旗艦でした。新任の提督に発令されたペリーが大急ぎで着任したのは、嘉永六

年三月（一八五三年四月）の上海で、一行がサンフランシスコを離れてからほぼ一年が経過していました。

一行の待遇も、外地の軍艦内では厳しくなり、いらだった一行はいっそうグループごとに行動するようになります。次々と事件も引き起こされました。香港では、岩城島の民蔵を含む9名が艦内から脱走、途中で追い剥ぎに遭い、断念して帰艦。また、除隊して帰国する米国水兵に勧められて、因島の亀蔵と播州の彦太郎（のちにアメリカ彦蔵）と次作の3人が再度米国に向けて渡米しています。

また、上海で待機していた米艦へ、一人の日本人、音吉が来訪します。彼は尾張の出身で、天保三（一八三二）年、乗船が難破し、漂流14ヶ月で北米に漂着、英国船に救出され、ロンドン等で学習したのち上海で勤務中でした。その間に、音吉は、天保八（一八三七）年に日本の漂流船員を送還しようとして、幕府に撃退された米国船モリソン号に乗船して、苦い体験をしていました。

音吉はこうした体験を話して、一行に下艦するように勧めました。そこで岩城島の民蔵ほかは、ペリーが着任する以前にサスケハナ号を下艦して、音吉宅にかくまわれました。ただ一人艦隊内に残留したのは瀬戸田の倉蔵（仙八）でした。上海に到着したペリーは、その報告を受けると激怒して、一同を連れ返そうとしますが、ペリー艦隊が出航するまで隠れていました。浦賀沖に現れた黒船には、こうした活劇が展開されていたのです。

艦内に取り残された倉蔵は、嘉永三（一八五三）年と翌年にも来日し、米艦の甲板上で幕府の役人に面会もしています。幕府の役人が現れると、瞬間、彼は土下座して、米国土官が「スタンダップ」と命令しても立ち上がれなかったこと、『ペリー提督日本遠征記』は記しています。彼は米国の三等水兵でもありました。

母国を目前にしながら、必死に帰国を拒んだ倉蔵は親しくなった米国水兵の実家に招かれ、彼のすず

めで洗礼を受け、宣教師となったその友人が来日する際に同行して帰国しています。けれども、郷里の生口島へは一度も帰っていない模様です。親しい米国人は彼の幼名、仙八をなまっただのかサム・パッチと呼んでいます。東京の文京区の本伝寺の墓碑にも「米名サム・パッチ」とあります。

上海で下艦した岩城の民蔵たちは、間もなく清国の商船で長崎に送還され、奉行所で取り調べのすえ、松山藩に引き渡されます。受け取りには、藩士と共に大庄屋（大三島の盛村）が迎えに行きました。帰国後は外国での見聞を話すことが禁じられていましたが、松山藩主は外国事情を知るために、度々民蔵を松山に呼び寄せています。堀内姓を名乗り、大吉と改名したのはその縁からであったと遺族が語り伝えています。禁じられていても、外国の動静については、ひそかに語ったらしく、大三島の井口村の『藤井此蔵一生記』には、「当郡岩城村の人異国より長崎表へまかり帰り：其の人いわく、この国（清国）もイギリスに打ち負け、今はイギリスに随い候、遠からずうち、日本もイギリスの為に大乱あるべし：」と記しています。

再度渡米した因島の亀蔵は、仲間と別れて米国商船に乗務中、シンガポールで日米修好通称条約調印のため派遣された幕府役人の一行と出合い、名乗り出て帰国しています。そのときの亀蔵は、母国語も忘れ果てていたらしく、面会した幕臣は「常語モ又用ル事能ハズ」と記録しています。故国を離れて十数年が経過していましたが。こうして、日本の近代史の幕は切り開かれたのです。



岩城島の大吉の墓（祥雲寺）

弓削商船高専・岡山商科大学名誉教授

村上貢 稿